

RUBeC 演習に参加して

古我 祐貴

Yuki KOGA

電子情報学専攻修士課程 2年

1. はじめに

私は2016年8月13日から29日まで、アメリカ合衆国カリフォルニア州にある Ryukoku Universty Berkeley Center (RUBeC) にて行われた RUBeC 演習に参加した。活動内容としては2週間の期間でテクニカルライティングとプレゼンテーションの授業を行い、将来的に国際会議等に投稿、発表出来るようになることを目標に学習した。また1週間一度、企業・学校訪問を行った。普段はホームステイ先での生活であったので日本との違いを身近に感じることが出来た。

2. 授業内容

授業に関しては2週間あり、午前はテクニカルライティング、午後は英語のプレゼンテーションの授業を受けた。

テクニカルライティングに関しては、事前に用意した自分の研究の要旨を基に少しずつ、授業を通して学んだことを活かして、論文を修正していった。具体的に授業で習ったことは冠詞や前置詞の使い方、接続詞等の基本的な文法である。二週目に入るとより完成度を上げるために、担当して頂いている講師の方から直接要旨の修正点について指導して頂いた。結果的に様々な指導を受ける事によって、基の要旨よりも読みやすい文章に修正することが出来たと私は考える。

英語のプレゼンテーションの授業では、自己紹介等の実技を通して、アイコンタクトやジェスチャー、発音等を上手く出来るように練習していった。特に苦労したところは、普段英語を話す上であまり意識しない発音や、チャンキングという相手が聞き取りやすいように一つの文章の中でもいくつか文章

を区切って話すようにする手法である。二週目に入ると事前に準備したプレゼンテーションの資料を見やすいように改良し、練習してきた発音の部分などの細かい確認をした。そして最後の授業では実際に自分の研究についてプレゼンテーションを行った。RUBeC 演習では理工学研究科の中でも様々な専攻の方が参加しているので、他の専攻の方に自分の研究について説明するのが難しかった。また発表を聞く側としては理解することが難しい研究もあったが、他の専攻の研究について知ることが出来て非常に有意義な授業であったと私は考える。

3. 企業・大学訪問

2週間の間に、前述した授業だけでなく、企業・大学訪問も行った。

企業訪問では、Thermal Technology 社に訪問し、実際に社内の見学を行った。Thermal Technology 社では主に Spark Plasma Sintering (SPS) 装置やアニーリング装置を製造販売、メンテナンス等を行う会社で、非常に大きな装置を取り扱うこともある企業である。主に社内の見学では実際に SPS 装置が動作している様子を確認したり、作業場に移動して出来たばかりの大型の装置について見ながら説明を受けた。その中で自分が今まで見てきた日本のメーカーとの違いは、非常に作業場が開放的であったことである。日本の企業の場合、装置等がずらりと並んでいたり、あまり外気に触れないような空間になっている印象だが、こちらの企業の場合は、大きな装置があっても小さく感じるぐらいの広さがあり、窓や空気の通り道等もあり、開放的に感じた。また、作業場で働いている社員の方もラフな格好をされており、日本の企業のように決まった作業着を着用されていなかったのが新鮮な感じがした。

大学訪問では、協定校であるカリフォルニア大学デービス校に訪問し、キャンパス内を歩きまわったり、大学の研究室の一つである Center for Geotechnical Modeling にも訪問し、研究内容などについて簡単に説明していただいた。キャンパス自体はデー

ビスという町の大部分ということで非常に広がった。建物の中には勉強するための施設の他に、音楽鑑賞や劇のために使用されるホールや消防署などもあり、キャンパス自体が一つの町のような感じだった。また大学に通う学生たちはほとんどが自転車でキャンパス内を移動しており、普通の大学では見られない光景を見ることが出来た。Center for Geotechnical Modeling では地盤についての研究を行っているため、非常に大きな実験装置を見ることが出来、またこの研究分野ではトップクラスの研究設備を持っているとの事だったので、研究するにはとても良い環境にあると感じた。実験について聞いていく中で一つの実験をするために長ければ2か月かかるという話も聞き、あまりにも規模の大きな実験ということがわかり驚かされた。またそこで研究されている学生の方等もやはり博士課程の方が多く、他大学からの留学生の方も多く在籍されていたことから、研究に対する意識が非常に高いことが伺え、卒業してからもほとんどの方は専門知識を活かし、活躍されているとのことなので学生の内から確かなビジョンを持ち研究に打ち込まれているということが容易に想像することが出来た。

4. ホームステイ先での生活

ホームステイ先での生活は海外での生活が初めてだった私にとって、新鮮であった。

私のホームステイ先のファミリーはモルモン教徒の方であり、食事前にお祈りをしたりと文化の違いを感じるが多かった。またカルフォルニア州は干ばつの影響であまり水を多く使ってはいけない等

のルールがあり、日本ではあまり考えたことがないことなので戸惑いが多かった。しかし、ホストファミリーの方には地元の面白い建物や教会などに連れて行ってもらった。教会等には同年代の方もいるので、コミュニケーションを取ったりゲームに参加したり等とても有意義な時間を過ごすことが出来た。

こうして日々を過ごす中で日本とは異なる文化について学ぶことが出来たし、会話の中でも学校の授業等では学ぶことが出来ない現地の人特有の言い回し等を実際に聞くことが出来た。

5. まとめ

RUBeC 演習を通して、やはり海外に行って体感してみないと分からないことがたくさんあるということを感じた。英語の要旨や英語のプレゼンテーションにしても、ネイティブの方に判断して頂くことで自分の修正していかなければいけない点、これからもっと伸ばしていきたい点等を明確に理解することが出来たと感じている。2週間という短い期間ではあったが、一日一日が非常に濃かったので非常に意義のある二週間であったと考える。私の場合は就職先が決まった状態で RUBeC 演習に参加したが、海外で仕事をする機会はあるはずである。なのでこの経験を活かして、海外でも活躍出来るような社会人として日々成長していきたい。

最後にご指導して頂いた現地の講師の方、最後までサポートして頂いた引率の先生方、教務課の職員の方を含めた関係者の方々、2週間の間共に勉強してきた RUBeC 演習参加者の皆さんには深く御礼申し上げます。